



— 第627号 —
 新潟市中央区浜浦町1の1
 浜浦小学校
 電話 (025) 266-3181
<http://www.hamaura-city-niigata.ed.jp/>

当たり前前の優しさを

校長 齋藤純一

児童玄関に、桜の花と「六年生ありがとう」の文字が飾られました。六年生を送る会に向けて、校内に様々なメッセージが一緒に飾られたのです。

児童玄関を入ってすぐの窓ガラスに、子どもたちのメッセージ入りの鳥たちが飾られました。三年生が六年生への感謝の気持ちを書き込んだ鳥たちです。

「町内子ども会するとき、大きな声を出してまとめてくれて、ありがとうございました。」(小林 紗和さん)

「遠足でみんなをまとめているすがたがとてもかっこよかったです。」(山崎 ましろさん)

「一年生するとき、そうじのしかたをやさしくおしえてくれて、ありがとうございました。」(笠原 郷太郎さん)

「はまなす祭るとき、みんなをまとめてくれてありがとう。中学校に行ってもおうえんしています。」(松山 奏さん)

「浜フェスのとき、『うまい』とはげましのことをかけてくれてありがとう。」(出合 悠馬さん)

「運動会するとき、声がかれそうでも、おうえんだん長をしてくれて、ありがとう。」(阿部 佑樹さん)

一年間を通して、本当に様々な場面で六年生にお世話になってきました。最上級生として、六年生は下級生の面倒を優しく見てくれていました。

掲示物だけではありません。一年生は

六年生にかけてもらうペンダントを、二年生が六年生にかぶってもらおう王冠を作りました。三年生が六年生を送る会への招待状を作りました。四年生は当日のアクションを考え、五年生は六年生に向けてのプレゼンと感謝のメッセージを用意しました。

感染症の流行で、私たちは大切なものを奪われてきました。自由に話したり、移動したりすることさえ制限されてきました。そのためなのか、人々の不満や苛立ちを感じるような出来事が聞こえてきます。匿名で、見も知らない他人を、簡単に誹謗中傷する。面白半分で、人に迷惑行為をして、それを拡散する。聞くだけで、こちらの気が滅入るような出来事が続けて起こっています。

こんな時だからこそ、私たちは、当たり前前の優しさを大切にしていかなければなりません。

私たちに優しくしてくれた六年生に、「ありがとう」「これからも頑張って」という感謝と御礼の気持ちを伝える、そんな当たり前前のことを、今年も全校で取り組みました。今年も雪がちらつく中で行われた六年生を送る会。このような温かな優しさのやり取りが、さらに広がっていくことを強く願っています。